

「読むこと」の基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫

―声に出して読む活動を中心にして―

糸満市立糸満南小学校教諭 末 次 悦 子

読む力を高めるために、文章をひとまとまりの語や文として、声に出して読めるようになることが、基礎になると考え、学習過程の中で、声に出して読む活動を工夫してきた。

文章を声に出して読む活動を多く取り入れることにより、一つ一つの語句を意識し、正確に読む力が育った。また、内容の読み取りの際、挿し絵や動作化に結びつけて声に出して読む活動をする事によって、語句の意味や表現に気づき、低学年の「読むこと」の基礎・基本である「順序を考えながら内容の大体を読むこと」の力をつけることができた。

【キーワード】 「読むこと」 基礎・基本 声に出して読むこと

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究仮説	21
III 研究内容	22
1 「読むこと」の内容と各学年の系統性	22
2 低学年における「読むこと」の基礎・基本	23
3 声に出して読むことの意義	23
4 正確な読みにつなげる声に出して読む活動の工夫	24
IV 授業実践	25
1 単元名	25
2 単元設定の理由	25
3 単元の指導目標	26
4 単元の指導計画と声に出して読む活動	26
5 本時の指導計画	28
6 考察	29
V 研究の成果と今後の課題	30

<小学校 国語科>

「読むこと」の基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫

—声に出して読む活動を中心にして—

糸満市立糸満南小学校教諭 末 次 悦 子

I テーマ設定の理由

今日、我が国の社会は、国際化、情報化、少子化等の様々な面で大きく変化しており、これらの変化を踏まえた新しい時代の教育の在り方が問われている。本県教育委員会では「自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ児童生徒の育成を図る。」ことを目標に掲げ、平成13年1月には、五つの努力点を示している。その一つとして基礎学力の定着があげられている。

全ての学習指導において、文章を読むことは基本的な技能である。書かれている内容を正しく理解するためには、文章をすらすら読めることが前提となる。したがって「国語を適切に表現し、正確に理解する能力の育成」を重視する国語科の基礎・基本は、全ての学習の基礎となるものである。そのためにも文章をすらすらと読めるようにする指導は、国語科で第一に優先されるものであると考える。さらに、書いてあることを正しく理解するためには、「文字を読む」、「内容を読みとる」という両面から読みの指導を考慮する必要があると考える。

これまで、国語の授業では、努めて全員がすらすらと読めるように、声に出して読む活動を多く取り入れてきた。その結果、「おむすびころりん」や「大きなかぶ」などの教材では、言葉のリズムや繰り返しのおもしろさに、何度でも声に出して楽しく読む児童の姿があった。また、「くじらぐも」では、登場人物になって読んだり、動作化をしたりしながら、物語の世界に同化していく姿が見られた。低学年の児童の「読むこと」の学習は、声に出したり、動作化をしたりというように体全体で学ばせることが大切であり、効果的であると実感した。

しかし、このように取り組んできたにもかかわらず新しい文章に出会ったとき、一字ずつ拾い読みをする、分ち書きで切って読む、読点や句点で休まずに読むなど、読みの基礎が定着していない児童もいる。これは、今までの指導で、児童に読みのめあてを意識させることが不十分であったことや、声にだして読むことの方法とねらいを、明確にしていなかったためではないかと考える。また、単元を通して「読むこと」の基礎・基本の位置づけが弱かったことも要因であると考えた。

書かれている文章を正確に理解するためには、語と語、文と文を関連させながら声に出して読むことが基礎になる。声に出して読むことによって、一つ一つの言葉や表現の良さに気づき、より正確な読みになる。

そこで、目的に応じて、声に出して読む学習活動を工夫することによって、「読むこと」の基礎・基本である叙述に即して、内容を正しく理解する力が身につくと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

読みの学習過程の中で目的に応じて、声に出して読む活動を工夫することにより、児童は一つ一つの語句や表現に気づき、「読むこと」の基礎・基本の定着を図ることができるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 「読むこと」の内容と各学年の系統性

国語科の目標「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てる。」を受けて示された「読むこと」の内容は、次の六つの系列に分けられる。

各学年の指導事項は以下の通りである。

系列	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読書的な読み	ア <u>易しい</u> 読み物に興味を持ち、読むこと。	ア <u>いろいろな</u> 読み物に興味を持ち、読むこと。	ア <u>主体的に</u> 書物や図書資料を選んで読むこと。
叙述内容に即した読み	イ 時間的な <u>順序</u> 、事柄の <u>順序</u> などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、 <u>中心</u> となる語や文をとらえて <u>段落相互</u> の関係を考え、読むこと。	イ <u>目的や意図</u> などに応じて文章の内容を的確におさえながら <u>要旨</u> をとらえること。
想像的な読み	ウ 場面の様子などについて <u>想像を広げながら</u> 読むこと。	ウ 場面の移り変わりや情景を、 <u>叙述をもとに想像しながら</u> 読むこと。	ウ <u>登場人物の心情</u> や場面の情景など、 <u>優れた叙述を</u> 味わいながら読むこと。
事象と感想・意見に関わる読み		エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ <u>一人一人の感じ方について</u> 違いのあることに気づく。	エ 書かれている内容について <u>事象と感想、意見</u> の関係をおさえ、 <u>自分の考えを明確に</u> しながら読むこと。
目的的な読み		オ 目的に応じて内容を <u>大きくまとめたり</u> 、必要なところは <u>細かい点に</u> 注意したりしながら文章を読むこと。	オ 必要な情報を得るために、 <u>効果的な読み方</u> を工夫すること。
声に出す読み	エ <u>語や文のまとまりや内容</u> 、 <u>響き</u> などについて考えながら声に出して読むこと。	カ 書かれている内容の <u>中心</u> や場面の様子が <u>よくわかるように</u> 声に出して読むこと。	

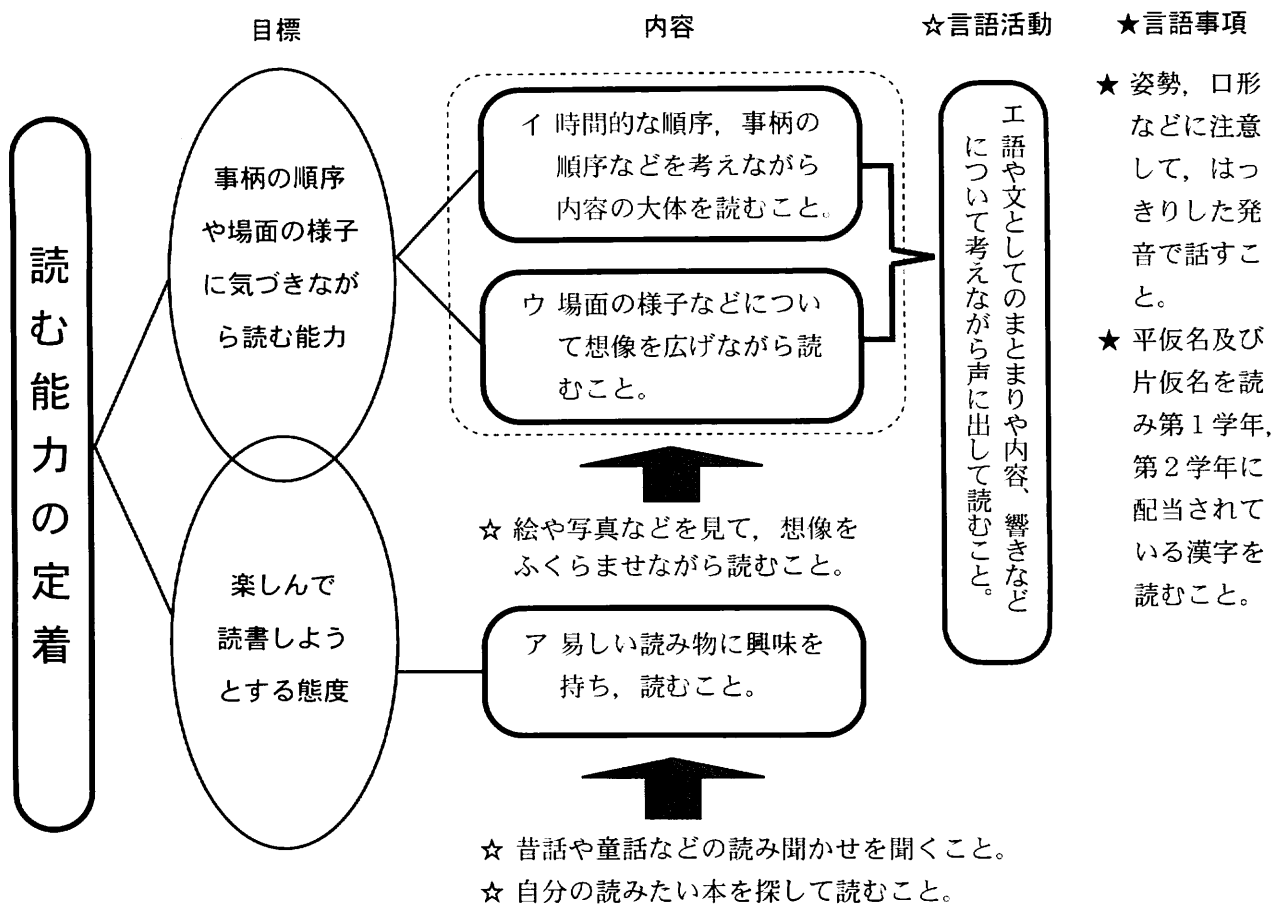
指導事項が2学年まとめて示されているのは、国語科の指導内容が、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに螺旋的・反復的に繰り返しの学習を基本としているからである。

声に出す読みは低・中学年、段落相互の関係は中学年、人物の気持ちの読み取りは高学年で重点的に取り扱う。また、言語事項でも、正しい発音・発声は低学年、適切な音量や速さは中学年、語感や言語感覚は高学年で重点的に取り扱う。

このように、2学年のまとまりの中で、重点的に指導内容を取り上げ螺旋的・反復的に学習することで確かな「読むこと」の基礎・基本の定着を図ることができる考える。

2 低学年における「読むこと」の基礎・基本

国語科の基礎・基本とは、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図る方針に基づいて改訂された学習指導要領国語編に示された内容全体であるとする。低学年における「読むこと」の基礎・基本を次に示す。



3 声に出して読むことの意義

書かれていることを読みとるためには、まず、読めなければならない。話し合い学習を中心に内容の読み取りをしようとする、限られた一部の児童の読みばかりが深まり、読めない子は何について話し合われているのかわからないこともある。読みとる力をつけるには、まず、声に出して読む力をつけることが出発点であるとする。文章を声に出して読むことにより、内容理解がより正確に、豊かになっていくものとする。

また、声に出して読む活動は、一人一人に活動の場を保障し、全員参加の学習ができる。しかも、音声で表現されるので、評価の観点を示せば、自己評価、相互評価がしやすくなり、主体的な学習活動も可能である。さらに、教師も評価に基づいた指導の手立てが工夫できる。

学習指導要領の指導事項で声に出して読むことは、第1学年から、4学年までに重点的に指導するように示されている。これは、声に出して読むことが、内容理解をねらいとして位置づけられているからである。声に出して読むことの効果については、次のような点があげられる。

- ① 文字と音声を結びつけ、文字の概念が形成される。
- ② 新しい語彙を獲得する。
- ③ 正しい発音、アクセントを身につける。
- ④ 文章内容の読み取りを助ける。
- ⑤ 文章の理解の度合い、語句の意味、漢字の読み方の評価ができる。
- ⑥ 声に出して読んでいる本人が、読み上げながら文章の響きを肌で感じることができる。

- ⑦ 聞き手の内容理解を助け、感動を共感できる。
- ⑧ 聞き手を意識した協同的な学習活動ができる。

4 正確な読みにつなげる声に出して読む活動の工夫

声に出して読む活動では下記のような形態が考えられる。読みの過程において、適切に組み合わせながら楽しく学習し、読みの力をつけていきたい。

形 態	活 動 及 び 利 点
教師による範読を聞く。	○ 教師の音読を子どもたちが聞くことによって、これから自分が読もうとする文章のあたらしい言葉や漢字の読み方を知ることができる。また、教材文の全体像がイメージされやすい。どの子も声に出して読めるようになるために教師が手本を示すことが有効である。
みんなと声に出して読む練習をする。 (一斉読み) (山びこ読み)	○ 声に出して読むことによって、読んでいることの曖昧さや、読めない文字がはっきりする。教師との山びこ読みや、交代読みなどで一つの言葉の読みや、文のまとまりを確かめながら読むことによって、ゆっくりでも一人で読めるようになる。 ※ このときに、まだ読めない文字や意味のわからない言葉に印を付けたり、聞いたりするようにする。一人読みをする前にできるだけ読みへの抵抗を無くしておきたい。
友達と聞き合いながら声に出して読む。 (交代読み)	○ 友達と交代で読むことにより、相手の読みを集中して聞いたり、自分の読みが相手に伝わっているかを確かめることになる。相手を意識するので多少の緊張感を保ちながら、大勢の前では萎縮してしまう子どももののびと読むことができる。教材の特徴や、ねらいに応じて一対一やグループ内で読み合うなどの形態が考えられる。
一人で声に出して読む。 (一人読み)	○ 一回読んだら立つ、座などの行動を伴いながら読むことによって、緊張感が加わると同時に、積極的な態度につながる。自分のペースで読むことにより文章の内容に意識を向けやすい。
挿し絵と照応させながら読む。 (挿し絵読み)	○ 挿し絵を言葉に対応させながら指し示す活動。絵や図と言葉をつなげることにより、言葉の意味がよりはっきりする。実物があれば、それを活用してイメージを確かなものにすることもできる。
動作化をしながら読む。 (変身読み)	○ 様子を表す言葉や文を動作化しながら読む。動作化することにより言葉のイメージを助けることができる。読みの弱い子は動作化から言葉の意味をつかむこともある。言葉の場合は自分で声に出しながら動作化をし、文章の場合は読み手と動作化をする側に分かれて活動したりする。
説明するように読む。 (はかせ読み)	○ 聞いている友達に書かれている内容がわかるように声に出して読んだり、挿し絵を利用しながら読んだり、手振り身振りを入れながら読む。調べたことを発表するときの活動につながる。

Ⅳ 授業実践

1 単元名「教材名」 じゅんじょに気をつけてよう 「たんぽぽのちえ」（光村図書二上）

2 単元設定の理由

(1) 教材観

教材文「たんぽぽのちえ」は、児童の身近にあるたんぽぽの花が枯れ、種をつけたわた毛が大空へ舞い上がるまでの様子が、時間的順序に従って説明されている。黄色い花がどんな経過をたどってわた毛を飛ばすようになるかについては、子どもだけでなく大人もほとんど気づかないであろう。花が終わるとじくを倒して栄養を蓄えていることや、わた毛ができる頃に、じくが起き上がり、ぐんぐん伸びることなどは、身近ではあっても気がつかずに見過ごしてしまいがちである。そのため、この教材には、初めて出会える事実があり、子どもたちにとっての発見がある。この機会をとらえて、児童たちの自然科学に対する目を養うとともに、自然の不思議さ、生命の素晴らしさに気づかせ、考えさせたい。

本教材は、たんぽぽの生長という時間的順序に従って説明が展開されている。事象の変化やそのわけを説明するために時間の経過を表す言葉や、指示語、「ぐったり」「ぐんぐん」などの様子を表す言葉がでてくる。また、わけを述べるときは、「・・・なのです。」「・・・からです。」などの文末表現で示されている。このような叙述を丁寧に読みとることにより、低学年の「読むこと」の基礎・基本である「事柄の順序や場面の様子を気づきながら読む能力」が育成され则认为る。

(2) 児童観

5月に読書力検査を行ったところ読字力の面で59%、読解力の面では83%の子が5段階評価の1と2となっている。特に読解力の面では文章を読むのに時間がかかり問題に取り組めない子が多く見られた。

また、教材文「たんぽぽのちえ」の一部分を読ませたところ（新出漢字は読み仮名をつけて）一字読みをする子が約1割で、句読点に気をつけなかったり、繰り返し読みや抜かし読みをする子が約7割であった。1年生の頃から繰り返し、声に出して読むことをしてきているにもかかわらず、書いてあるとおりに正しく読むこと、句読点で休むなどの基礎的な読みがまだ定着していない児童が多い。

そこで、読み間違えずに、すらすら読めるようにするとともに、たんぽぽの生長の順序を意識させた学習活動を展開したい。

(3) 指導観

この教材でおさえられる基礎的・基本的事項は主に「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」と「語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」である。

言葉や表現に着目させるためには教材文を語や文のまとまりで声に出して読めなければならない。それで、教材文の内容に入る前に声に出して読む活動を多く取り入れ、正確に音声化できるようにさせたい。また、意味のわからない言葉などもこのときにある程度おさえ、読みの弱い子たちの教材文への抵抗をなくしておきたい。

内容の読み取りの段階でも、授業の前半には声に出して読む活動を多く取り入れ、十分読み込んでから、挿し絵と対応させて言葉や順序をおさえたり、動作化などを取り入れたりして読みを確かなものにさせたい。そして、相手を意識して読むことによって自分自身の読みとりが自覚できると考えるので、1年生に、「たんぽぽのちえ」に書いてあることがわかるように読み伝える場を設定し、めあてをもたせて声に出して読む活動に取り組ませたい。

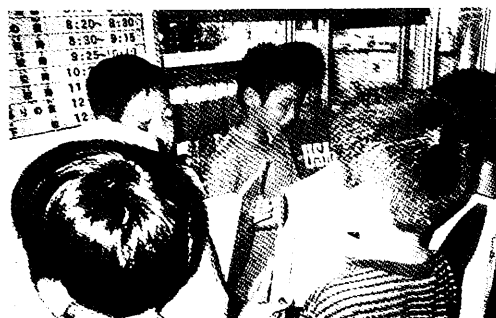
新しい単元に入ったとき、すぐに声に出して読める子も入れば、一字一字たどたどしく読む子もいる。拾い読みの段階では、内容を読みとることは難しい。そこで、本単元では、指導過程に沿って声に出して読む活動を工夫し、楽しく学習する活動、内容を正確に読みとる力の育成を図っていきたい。

3 単元の指導目標

- 順序に気をつけながら、事象の変化とその原因を叙述に即して正しく読み取ることができる。
- たんぽぽの種族保存のための営みを読み取り、自然の不思議さ、おもしろさに興味を持つことができる。
- 「です。」や「のです。」「からです。」の文末表現や指示語、接続語の使い方に気づくことができる。

4 単元の指導計画と声に出して読む活動

過程	主な学習内容と活動	予想される児童の反応	声に出して読む活動	評価
教材文との出会い	押さえてたい言葉 ○ 範読を聞き、話の大体がわかる。 ・ 題名について話し合う。 ・ 新出漢字を読む。 ・ 山びこ読みをする（1時間） 黄色い、黒っぽい、地面、わた毛、太らせる、当たる、遠く、遠く、晴れる、多い、新しい	たんぽぽの「ちえ」ってなんだろう？ わた毛のついたくきは、花より高くなっているよ。 たおれてしまうってかいてあるから2ばんめの絵のところだね。	① 範読を聞く どんなお話か、よく聞いてね。 ② 山びこ読み 山びこみたいに先生の真似をして、はつきりと読みましょう。	・ 姿勢や口形に気をつけてはつきりした発音で読むことができる。
	文章を読み慣れる ○ 挿絵を中心にしながら、話のまとまりを見つけることができる。 ・ 話の順に挿絵を並べる。 ・ 段落を挿絵に対応させて分ける。（2時間） ○ 文や段落のまとまりに気をつけて、はつきりと声に出して読むことができる。 ・ 良い姿勢で読む。 ・ 発音に気をつけて読む。 ・ 言葉や文のまとまりに気をつけて読む。（1時間） じゅんじょ、ちえ、しぼんで、じく、黒っぽい、ぐったり、えいよう、太らせる、すっかり、わた毛、らっかさん、せのび、ぐんぐん、せい、じめりけ、風のある日、すぼんで、しめって、いろいろなちえ、あちらこちら、ちらじて	しぼむとすぼむってなにがちがうのかな？ お話は、6つにわけられるんだ。 いろいろなちえってあるからさいごは絵がないんだよ。いろいろってかいてあるから、1まいの絵じゃないよ。	③ 交代読み はじめは、先生とみんな交代して読みます。点や丸で交代するので、本をしつかり見て読みましょう。 つぎは、友達と二人組になって読みましょう。	・ 話の順に挿絵を並べることができる。 ・ 初めて知った言葉を見付け、線を引くことができる。



2人組みで交代読み

読み深める	○たねを太らせるためのちえを読み取ることができる。 ・様子を表す言葉を動作化する。 ・言葉と挿し絵を照応する。 (1時間)	①一人読み 良い姿勢で、点や丸に気をつけて、はつきりと読みます。自分の速さで読みましょう。 ⑤変身読み たんぽぽさんに、変身して読んでみましょう。次は読む人と変身する人に分かれてやってみましょう。 ⑥挿絵読み 「じく」は、どこでしょう？挿し絵をおさえながら読みましょう。	・軸を休ませて栄養を送ってたねを太らせていることを読み取ることができる。
	春になると 二、三日たつと じく しぼんで 黒っぽい ぐったり えいよう かれるとおもっていたらたねにえいようをおくっていたんだね。 ○たねをふわふわと飛ばすためのちえを読み取ることができる。 ・わた毛の一つ一つを描いたり、「すっかり」を使って短文作りをする。 (1時間)		・わた毛がらつかさんのようにひろがり風に乗ってたねを飛ばしていることを読み取ることができる。
	やがて すっかり 一つ一つ たらっかさんのように、そのあと ふわふわ 風でよくとぶようにらっかさんのようなわた毛がついていたんだね。 ○たねを遠くまで飛ばすためのちえを読み取ることができる。 ・じくを伸ばしていく様子を動作化しながら読む。 ・問いの文を見つける。 (本時)		・花の軸を伸ばして種を遠くまでとばしていることを読み取ることができる。
読み伝える	このころ そうして ぐんぐん せのびをするように ○天気によってわた毛が変化するちえを読み取ることができる。 ・晴れた日としめりけの多い日に別れて、言葉を対比しながら読み合う。 (1時間)	⑦はかせ読み 挿し絵を指し示しながら一年生にもわかるように、はつきりと読みましょう。	・わた毛がすばむのは雨の日には湿って重くなり遠くまで飛べなくなるからであることを読み取ることができる。
	晴れた日 しめりけの多い日 びらく すばむ しめうて 雨の日にとぼうと したら雨にぬれて、すぐ そばにおちて、遠くまでとべなくなるんだよ。 ぼくは じくがのびるところを クイズにしよう。 ○問いと答えの文をつかってたんぽぽクイズを作ることができる。 ・たんぽぽのちえについてクイズを作る。(1時間) ・1年生にたんぽぽクイズを読んであげる。(1時間) 問いの文 「なぜ、～でしょう。」 答えの文 「～のです。」 「～だからです。」		・問いの文や答えの文を文末に気をつけて書くことができる。
まとめ	○学習してわかったことや著者に尋ねたいことを手紙に書くことができる。 ・たんぽぽはかせに手紙を書く。(1時間)	一つの花に、たねがなんこあるか、としょかんの本でしらべたよ。	・聞き手を意識しながらクイズと答えを読むことができる。 ・わかったことを自分の言葉でまとめ、手紙に書くことができる。

5 本時の指導計画

(1) 本時の指導目標

花のじくをのばすたんぽぽのちえと、そのわけを読みとることができる。

(2) 授業の仮説

文末や順序を表す言葉や様子を表す言葉を声に出して読んだり、動作化することにより、花のじくを伸ばすたんぽぽのちえとそのわけを読みとることができるであろう。

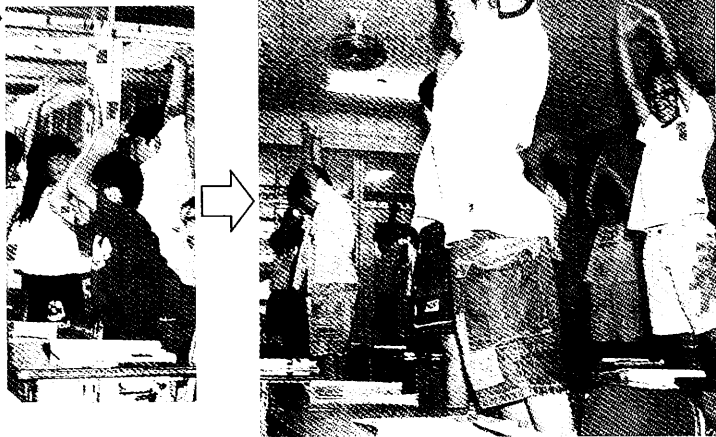
(3) 展開の実際

児童のつぶやき



教師の指示



過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
	1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時のめあてを声に出して読む。 3. 本時の範囲を声に出して読む。 	・ 順序を表す言葉とたんぽぽの花の挿し絵を提示しながら、生長の様子を思い出させる。 姿勢に気をつけてはっきりとした声で読みましょう。1回目は座って、2回目は立って、3回目は後ろを向いて読みましょう。 ・ 読みの苦手な子の支援をする。	* 姿勢よく、はっきりと読むことができる。
深 め る	4. たんぽぽの変化を読みとる。 ・ 「このころになると」は、花がどのような状態のときか考える。 ・ 花のじくが、おき上がり、伸びていく様子を読みながら動作化する。 そうして せのびをするように ぐんぐんのびるんだよ。 おきあがって 	・ 挿し絵に着目させ、「わた毛」のできたころであることをおさえる。 たんぽぽさんに変身して、書いてあるとおりに動作化しましょう。 ・ 読み手と動作化する側に分けて活動させる。 ・ 花の軸の様子が書かれている文を読みながら動作化できるようにする。	* 伸びていく様子を文章に即して動作化することができる。

15分	5 せいを高くするわけを読みとる。 ・ 問いの文を見つける。 ・ わけを書いた文に線を引く。 「～のです。」の文だったけど・・・	・ 「なぜ、・・・・・・でしょう。」の文が問いの文であることをおさえる。 ・ 「～からです。」もわけを書いた文であることをおさえる。	
まとめる 10分	6 ワークシートを書く。 7 まとめの読みをする。 ・ じくが伸びていく様子を書いた文と問いの文とわけを書いた文に分かれて声に出して読む。	・ 書けない子には、線を引いたことを思い出させる。	＊花のじくがのびるわけをワークシートに書くことができる。

(4) 授業の考察

「このころになると」という言葉だけでは、花が枯れた後ととらえる子もいたが、挿し絵を活用することにより、わた毛のできる頃であることをおさえることができた。2年生にとって、抽象的な言葉や指示語などは、言葉→挿し絵→言葉の流れでおさえると理解しやすいということがわかった。

文末に着目させるという面では、前時までにわけを書くときには、「～のです。」で終わっていることをおさえていたので、「～からです。になっているよ。」という声が聞かれた。一つの文末をしっかりおさえることで、他の場面でも文末を意識できるようになり、教師が一つ一つの言葉を大切にしたい授業を展開することが大切であると痛感した。

様子を表す言葉を声に出して読んだり動作化する事で、「せのびをするように」や「ぐんぐん」の言葉に着目させ、生長の様子をとらえさせることができた。また、子どもたちが、「そうして」という言葉で動作が一度止まり、それから背伸びをし始めたので、順序をおさえるときにも動作化が効果的であった。

6 考察

(1) 教材文との出会い

教師の範読を聞くことにより、読みの苦手な子も、話の大体の筋をつかむことができた。また、新しい漢字の読みや、読みにくい言葉を取り上げながら、繰り返し読ませることによって、だんだん自信を持って声を出す子が増えてきた。

(2) 文章を読み慣れる

この段階では、「姿勢よく」「正しく」「はっきり」を徹底して指導することが大切であり、ここで、言葉の正確な読みにこだわったことで、読み深める段階で、自然に言葉に着目する姿が見られた。

友達とペアになっての読みでは、相手を意識して聞いたり、読んだりする姿が見られた。交代で読むので読むことが苦にならず楽しく読むことができた。

この時に、読みに抵抗のある児童と教師がペアになり、さりげなく援助をする事ができた。

(3) 読み深める

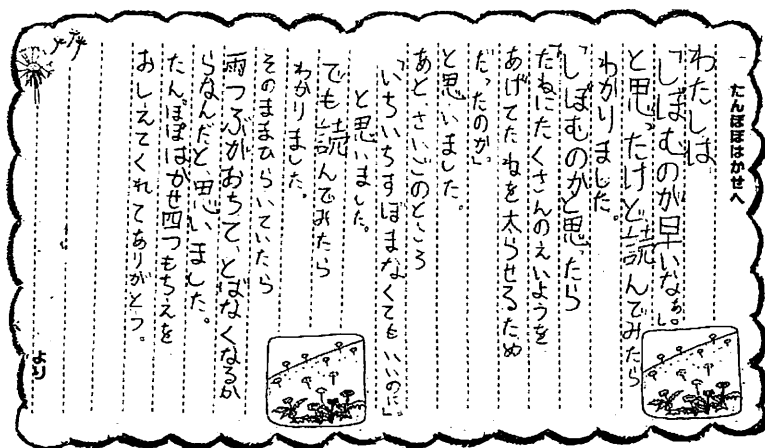
読み深める段階では、内容を考えながらの読みにつなげなければならない。ここでは、自分の速さで、内容を考えながら読ませるために一人読みをさせたり、イメージをふくらませるために動作化をさせたり、言葉をはっきりとさせるために挿し絵を押さえながら読ませたりした。

動作化をしながらの読みは、文や言葉を読みながら動作化をしたり、読み手と動作化する側に分かれて活動したりしたが、児童は楽しんで行っていた。また、動作化をするときに「地面につかないよ。」「ぐんぐんだから、もっと伸びるんだよ。」などのつぶやきがよく聞かれ、低学年は全身を使って学

姿勢を正し、はっきりした声で読みます。



挿し絵を語や文と対応させながらの読みは、児童の言葉の理解が正確になる。「じく」を「かく」の部分と思っていた児童が3分の1ほどおり、挿し絵で確かめる事で、言葉の意味をはっきりと捉えさせることができた。新しい語句やはっきりしない語句は、文字から声（言葉）→言葉と挿絵の照応で確かめることで正確な読みにつながると感じた。



資料 [たんぽぽはかせ (著者) への手紙]

それまで学習したことをもとに、クイズと答えという形式にして、1年生に読んであげる場を設定した。聞き手が1年生ということで、2年生なりに上手に読もうと練習する姿が見られ、家庭学習で家族を前に練習してきた児童も多い。このような活動は初めてなので、途中、教師が援助する場面も多かったが、熱心に聞いてくれた1年生の姿や、お礼の手紙から今後の意欲に結びつける事ができたのではないかと考える。また、1年生から「よくわかったよ。」と言われたグループの読みを聞くことにより、「相手に伝える読み方」のイメージをふくらませることができた。

1 成果

- (1) 学習の初めの段階で、声に出して正確に読む活動を多く取り入れたので、言葉や文に注意して読むようになってきた。
- (2) 声に出して読む活動と挿し絵を結びつけることにより、たんぽぽの成長の順序をとらえることができ、初めて出会う言葉の理解を助けることができた。
- (3) 声に出して読むことと動作化を結びつけることにより、言葉のイメージを助けることができた。

一単元で「読むこと」の基礎、基本を定着させることは難しく、このような学習活動を繰り返し、積み重ねていく事が定着につながると考える。また、読みとったことを表現する、読書につなげる指導を工夫することで児童の読みの力を高めていきたい。

- (1) 児童が目的意識を持って読み深められるような発問、指示の工夫。
- (2) 読む力を高めるための個に応じた支援の工夫。
- (3) 「読むこと」の学習過程で読書意欲につながるような指導の工夫。
- (4) 他領域と関連づけた「読むこと」の年間指導計画の作成。

石田佐久馬編	『音読を読みとりにどう生かすか』	東洋館出版	1994年
石田佐久馬編	『説明文で何をどう学ばせるか』	東洋館出版	1993年
小森茂・甲斐睦朗編	『小学校学習指導要領の展開』	明治図書	1999年
小森茂・本堂寛編	『新しい教育課程と学習活動の実際』	東洋館出版	1999年
文 部 省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版	1999年
本堂寛・太熊徹編	『新学習指導要領Q&A～解説と展開国語編』	教育出版	1999年